

★今週の聖句

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」

ヨハネによる福音書 15:15

★ねらい

- ・全聖徒主日の意味を知る。
- ・生きている人も死んだ人も、神さまによって「聖」とされていることを知り、神さまに感謝する

★ 説教作成のヒント

- ・西暦や日本の暦の紹介を導入に用いてもよい（教会と日常とのつながりを確認できる）。
- ・全ての命が神さまによって祝福されていることを伝える。
- ・ルターはイエスの十字架の死と復活によって人間の死は取り払われたという。

★ 豆知識

- ・この主日の前日の10月31日は諸聖人・聖徒（ハロウの日）の前夜（イヴ）という意味でハロウィーンと呼ばれるようになった。また11月1日は古代ローマの果樹の女神ポモナの祭日であり、ここからハロウィーンにりんごを贈ったり食べたりする風習が存在する。
- ・カトリックでは諸聖人の日(11月1日)の次の日に死者を記念する礼拝を持つ。

★ 説教

みなさん、今日の礼拝堂を見て先週と何か違うところがあるのをわかりますか？（宗教改革主日として守っていたら聖卓布が赤、聖霊降臨後主日として守っていたら聖卓布が緑）そうですね、聖壇にかかっている布の色が違います。この布の色は牧師先生が自分の好きな色にしているわけでも、その日の気分で決めているわけでもありません。この聖壇の布色は、その日曜日がどんな日曜日かをあらわしています、例えば赤色は血を意味し、教会の記念日に使う色ですし、緑だったら希望や成長をあらわし聖霊によって私達の教会が豊かに成長するという意味があり、聖霊降臨後の日曜日などに使います。では今日の白色は何をあらわしているのでしょうか？それは心が奇麗になることを意味しています、難しい言葉で言うと魂の清めといいます。そしてこれは喜びをあらわしていて、クリスマスやイースターなども白色を使います。

さて、では白い聖卓布を使うこの日曜日は何と言う名前の日曜日でしょうか？そうですね、掲示板や週報に書いてあるので、見た人もいるでしょうね、今日は全聖徒主日という日曜日です。主日というのは日曜日のことなので、全聖徒、全ての聖徒の日曜日となります。では聖徒ってなんなのでしょう？みなさんも学校では生徒と呼ばれますよね、生徒と聖徒、どこがちがうのでしょうか？（黒板等に字を書いてみる）そうです、生きている徒と聖なる徒の違いですね、聖徒の聖は聖書の聖ですね、聖とは神さまによって生かされ、清められ、神様を信じるという意味があります。神さまに心をきれいにされ、神さまを信じた全ての人を聖徒というのです。今日読んだ聖書にあった「イエス様の言葉によって清められ、イエス様につながっている人」のことですね、この聖徒、生きているとか、死んでいるとかは関係ありません。生きていても死んでいてもイエス様の言葉によって清められ、イエス様につながっている人はみんなが聖徒なのです。そして今日は、この全ての聖徒共に礼拝を守るのです。

今日の礼拝で、もう神さまの近くに行ってしまうて会えない人のことを思い出してください、生きている人も死んでいる人も、神さまはみんなを「聖」として、守り導いてくださいます、神さまに感謝して礼拝を守りましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

60番

改訂131番

やってみよう

ひとりひとりの顔を描いてぶどうの木をつくりましょう。



大きなぶどうの木をつくります。
ぶどうの実はひとりひとりの顔です。

教会に来られている大人の人
(CSスタッフや保護者の方々も)
教会員にも描いてもらったり。
みんなで描いて、ぶどうを
たくさんつくりましょう。

教会につながっているたくさんの人たちの
ことを知り、感謝して、お祈りする。

話してみよう

- ・死んだ人の事を思い出するときってどんな時？
- ・もし自分が死んだら思い出してほしい？ そうならどうやって思い出してほしい？
- ・つながっているってどんな気持ち？ 手をつないでみよう！ 間にイエス様の人形置いてみたら？ 亡くなった人の写真を置いてみたら？ どんな気持ち？

★今週の聖句

「良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に忠実だったから、十の町の支配権を授けよう。」
ルカによる福音書 19:17

★ ねらい

・王位継承の物語と王不在の物語が合わさって一つの物語を作っているが、いずれにしても再臨のイエスを待つ間の私たちの生き方が示される。

★ 説教作成のヒント

- ・たとえの中で登場する人物が誰を指しているか考える。
- ・あずかった「ムナ」は何をたとえているか考える。
- ・原文ではムナを増やした僕たちは「私が増やした」とは言わず、「あなたのムナが10ムナもうけました」「あなたの1ムナが5ムナ稼ぎました」と、主語は「ムナ」である。

★ 豆知識

- ・一般的には王が即位するために自分の領土以外（遠方）に行くことはないが、ローマ帝国支配下の属国の王は、即位する前にローマに行き皇帝に認証をしてもらう必要があった。
- ・ムナは古代ギリシアの貨幣単位でローマ貨幣に換算すると100デナリ相当する金貨。
- ・当時の歴史家ヨセフスの「古代史」には、ヘロデ大王の死後、ユダヤ人たちは王位を認証してもらうとローマに出かけて行った二人の息子とは別に、自らの自治権を求めて自分達の使節を直接ローマに送った記録がある。

★ 説教

イエス様の「たとえ話」には、たくさんの方が登場しますね、今日の「ムナ」のたとえ話にも立派な家柄の人、十人の僕、国民、使者、そばに立っていた人々、たくさんいます。でも「たとえ」ですから、誰かが誰かをたとえて語られているお話です。ではいったい誰が誰を「たとえているのでしょうか？

まずこの「立派な家柄の人」はイエス様のことです、イエス様はエルサレムに近づいたときにこのたとえ話を人々に語られましたよね、「自分はエルサレムで十字架にかかって死ぬことになるけど、ちゃんと戻ってきますよ、その間、みなさん私を信じてしっかり生きてくださいね」と、きっとこんな思いでこのたとえ話を語られたんだと思います。ではムナを受け取った僕たちは誰でしょうか？もしかするとイエス様を信じるお弟子さんたちかもしれませんし、今教会に集まっている私たちかもしれません。

王様は10人の僕に「ムナ」を預けました、これはギリシアの金貨で、今でいうと何百万円もの価値のあるお金です。王様のいない間、ある人は10倍に、ある人は5倍に増やしました。布に包んでしまっておいて人もいます。王様は増やした僕をほめました、そして置いておいた人をしかりました。この「ムナ」とは何でしょうか？

それは「イエス様の言」だと思います。教会では「福音」、喜びの知らせとも言います。何百万円もの価値があって、その気になればより豊かな実りをもたらす、元気になる人が増えます。でも自分だけでこっそりしまっていたら、それはその人だけのものになってしまいます。

イエス様は、「自分は十字架につけられて殺され3日目に復活し天に昇ったけど、また必ず戻ってきますよ、弟子であるあなたがたは私の言を多くの人に告げ知らせなさい」と言っておられるのです。みなさんも聖書の言葉を聞いて元気になったり、励まされたり、喜んだり、嬉しくなったことがありますね、そんな言葉を自分だけのものにして布にしまっておくのではなく、自分の周りの色んな人に伝えるようにと、イエス様は勧めて下さっているのです。

★分級への展開

さんびしよう

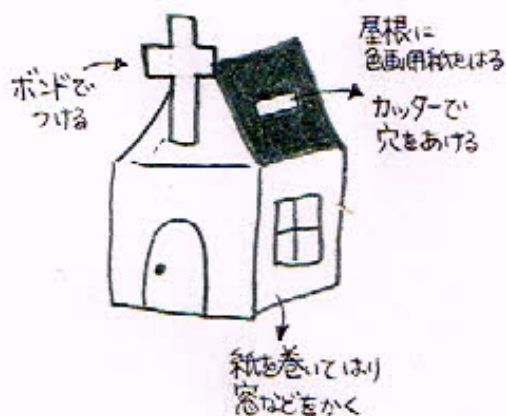
*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□48番

□改訂5番

やってみよう

・牛乳パックの教会型貯金箱



今からクリスマスの準備をしましょう。
目的を決めて少しずつ貯金をして
クリスマスにささげましょう。

牛乳パックの口の部分を切り取り。
好きな大きさに切り取る。
(そのままでもよい)

できあがったら、みんなで見せあって、家へ持ち帰りましょう。
クリスマスまで、自分のおこづかいを少しずつためていきましょう。

話してみよう

- ・みんなお父さんから100万円もらって「預かっというて」と言われたらどうする？
もし増やすために好きに使って好いって言ったらどうやって増やす？
- ・聖書の言葉を聞いて元気になったり、励まされたり、喜んだり、嬉しくなったりしたことある？それはどんな時で、どんな言葉だった？
- ・聖書の言葉を誰かに伝えたことある？それって簡単？難しい？

★今週の聖句

「すべての人は、神によって生きているからである。」

ルカによる福音書 20:38

★ねらい

・イエス・キリストの復活の出来事が「死」のためにあるのではなく、今を生きる「生」のためにあることに励まされる。

★ 説教作成のヒント

・復活とは死後の世界に対する興味ではなく、たとえ苦しくても、なお神に信頼し生きるための希望。
・この世のあり方と復活の世のあり方は違う。この世の延長線上に復活の命があるのではない。

★ 豆知識

・サドカイ派は当時のエルサレムの神殿の権威や富と結びついていた一派だと言われている。
・ファリサイ派はモーセ五書以外の預言書なども大切にしていたがサドカイ派はモーセ五書のみを正典とした。また復活も霊も天使も否定し、人間の存在は死の際に全て滅びてしまうと考えた。

★ 説教

みなさんは死んだらどうなるか考えたことがありますか？それはどんな時でしたか？私はすごく嫌なことがあって、自分なんか、この世界から消えてしまえばいいと思った時と、大好きだったおばあちゃんが死んで教会でお葬式をしていたときに考えたことがあります。今から思えば、それはとってもつらい時でした。みなさんはどうですか？とっても元気な時や色々うまくいって充実しているときに「死んだらどうなるか？」考える人はもしかすると少ないかもしれません。

もしかするとイエス様は、サドカイ派の人の質問に答えるようにみえて実は、まわりにいる弱っている人、つらい時を過ごしている人たちに対して「復活」についてお話をされたのではないかと思います。それはイエス様がサドカイ派の人たちにお話をしたモーセの「柴」の箇所は、エジプトで苦しむイスラエルの人たちを助け出すために、神さまがモーセを選んだ箇所だからです。イエス様はここで、神さまはいつも人と共にいて、どんな苦しみの中でも人を導きいてくださる方であり、人が希望を持って生きることができるよう豊かな祝福を与えてくださる方だということを説明しているのです。そして神さまによって生かされている私たちは、神さまによって復活の命にあずかることができるということを、イエス様はおっしゃっているのです。

「つらくても、弱っていても、あなたたちは生きていて、あなたたちは神によって生きている、勇気を出して生きなさい」と、イエス様は語ります。死んだあと自分はどうなるのか？死んだら誰が誰と結婚するのか？そんなことをあれこれと考えるのではなく、今、神によって生きているあなたの命を考えなさい、すべての人は、神によって生きているからである。イエス様は私たちにこうおっしゃっているのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□3番

□改訂97番

やってみよう

さんびか「かみさまといつもいっしょ」（ゴスペルミュージック）を歌う。
（最後に歌ってもよい）

子どもたちと感謝できるものをあげて、カードに書きだす。



リボンでつなぐと飾りにもなる

例えば「家族をありがとうございます。」
「住む家をありがとうございます。」
「食べれる野菜や果物をありがとうございます。」
「友だちをありがとうございます。」

※感謝すべきことを表す絵や写真をあらかじめ少し集めて
おくと効果的。絵や写真を見ながらこぼれに書く。

カードに書いたものをみんなで言ってお祈りする。

（時間があればさんびかの替わりにもつくりましょう。）

話してみよう

- ・牧師先生にユダヤ教のファリサイ派やサドカイ派の人たちの「復活」についての考え方を聞いてみよう！
- ・死んだあとどうなる？死んだ人って今どうしてると思う？
- ・生き続ける上で必要なものってなんだろう？

★今週の聖句

「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

ルカによる福音書 21:19

★ ねらい

- ・イエス様を信じて生きる生き方が決して楽なものではないことを知る。
- ・この世の終わりについて私たちにわかっていることはないが、もし世の終わりがやってきても決して滅びないものがあることを知る。

★ 説教作成のヒント

- ・「髪の毛一本」(19節)とはごくわずかなもの、ほんの小さなもののたとえ。
- ・新共同訳聖書は19節を「命を勝ち取る」と訳しているが、ここで言われる命は永遠の命であり、神に与えられる結果として「得る」ことができるもの。
- ・「命」(19節)とは「魂」とも訳せる言葉で、もともと「下にとどまる」という意味。我慢ではなく踏みとどまる。

★ 豆知識

- ・ルカによる福音書は紀元後80年ごろに執筆されたと考えられており、70年のエルサレム神殿崩壊、キリスト教弾圧などの実態が反映されたものとなっている(マルコでは親子兄弟のみだがルカでは親族や友人にもふれられる(12節)等)。

★ 説教

(今年の社会の教科書を手を) みなさん、これは 2013 年の〇年生の社会の教科書です、持っている人もいますね、では(できれば古いほどよい)この本は〇〇年前の〇年生の社会の教科書です。少しずつ違いますが、大きく違うところがあります、それはどこでしょう?そうですね、3年前の東日本大震災のお話のついていません。それは何故ですか?そうですね、まだ起こってないからです。この 2013 年の社会の教科書には地震の話がたくさんありますが、過去に起こった出来事だから、こんなに詳しくのっているんですね。

このように、教科書や本にはその本を書いているときと、実際に起こった時と、時間差があります。また、本が書かれた時と、実際にそれを読んでいる人たちの間にも、時には少し、また時にはたくさんの時間差があります。

今日読んだルカによる福音書も、実際にイエス様がエルサレム神殿で話した時と、ルカによる福音書が書かれた時とで、時間差がありました。イエス様はご自分が十字架につけられる前や、復活して天に昇られる前に、何度も「私はまたあなたたちのもとに戻ってきますよ、みんなを迎えに来ますよ」と言われました。イエス様のお弟子さんたちはその言葉を信じて、早くイエス様に会いたいなあと思いながら毎日過ごしていました。1ヶ月経ちました、イエス様はまだ来ません。半年たちました、イエス様はまだ来ません。一年たち、二年たち、10年たち、50年たち、それでもイエス様はまだ来ません。イエス様のおデッサンたちはだんだん心配になってきました、イエス様は本当に来るのだろうか?不安になってきました。ルカによる福音書はそんなときに書かれました。

ルカによる福音書を書いた人は「世の終わりはすぐに来ない」というイエス様の言葉を思い出しました。イエス様が天に昇られてから大きな戦争がありました、イエス様を信じる人たちがいじめられたりもしました、ルカによる福音書を書いた人は大きな地震や恐ろしい現象が起こる前に「人々はあなたがたに手を

下して迫害」されるというイエス様の言葉を思い出しました。そしてそんな大変なことが起こったとしても「どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授ける」という言葉や、「あなたがたの髪の毛一本も決してなくなる」「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」というイエス様の言葉もみんなに伝えようと思いました。神さまの言葉は決して滅びることがないのだから、神さまの言葉を信じるあなたがたも大丈夫、苦しくても、しっかりと生きなさい。

ルカによる福音書が書かれてから、もう千九百?十年経ちました、イエス様はまだ来ません。世界を巻き込む大きな戦争が二度もありました、何千・何万の人が亡くなる地震や津波がありました、私たちはいつイエス様が再び来られるのか知ることができません。でもルカによる福音書を書いた人は、イエス様の言葉を私たちにはっきりと伝えてくれます生きることに「おびえてはならない」「対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしはあなたがたに授ける」「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取なさい」と。神さまの励ましに感謝して、今日も明日も、しっかりと生きていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□120番

□改訂129番

11月の第4日曜日（アドベントが重なる場合は第3日曜）が収穫感謝日です。

やってみよう

野菜汁をつくる

あらかじめ、大鍋や調味料を準備しておく。
また、前の週までに野菜の持ち寄りを伝えておく。

1. みんなで持ち寄ったものを集めて、ひとつひとつ感謝しましょう。（恵みをかぞえましょう）
2. 野菜汁を作る。野菜を洗う人、切る人、煮る人など分担してやりましょう。
3. 煮込んでいる間に、片づけたり、器や箸などを準備してテーブルのセッティングをしましょう。
4. 分けあっていただく恵みに感謝しましょう。

※ 持ち寄る野菜は、キャブツの葉1枚やブロッコリーの芯など、家に残っている野菜でもよい。

話してみよう

- ・この世の終わりって考えたことある？もし来るならどうやって終わると思う？
- ・2011年3月11日以前の教科書と以降の教科書を見比べてみて、どこが一緒でどこが違うが調べてみよう。
- ・生きることが大変と思ったことってある？